

安全データシート

りん酸水素ピス(2-エチルヘキシル)

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名 : りん酸水素ピス(2-エチルヘキシル)
CB番号 : CB4464040
CAS : 298-07-7
EINECS番号 : 206-056-4

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途 : コバルト、ニッケルの溶媒抽出剤
推奨されない用途 : なし

会社ID

会社名 : Chemicalbook
住所 : 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話 : 400-158-6606

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

平成24年。政府向けGHS分類ガイダンス(H22.7版)を使用

GHS改訂4版を使用

健康に対する有害性

急性毒性(経口) 区分4

急性毒性(経皮) 区分4

皮膚腐食性/刺激性 区分1

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分1

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性) 分類実施中

水生環境有害性(長期間) 分類実施中

オゾン層への有害性 分類実施中

2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

絵表示

GHS05	GHS07
-------	-------

注意喚起語

危険

危険有害性情報

H312 皮膚に接触すると有害。

H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷。

H412 長期継続的影響によって水生生物に有害。

注意書き

安全対策

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

P273 環境への放出を避けること。

P280 保護手袋 / 保護衣 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

応急措置

P301 + P330 + P331 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

P303 + P361 + P353 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P362 + P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保管

P405 施錠して保管すること。

廃棄

P501 内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

2.3 他の危険有害性

なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
分子量	: 322.42 g/mol
CAS番号	: 298-07-7
EC番号	: 206-056-4
化審法官報公示番号	: 2-2014; 2-1986
安衛法官報公示番号	: -

4. 応急措置

4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

応急措置担当者は自分が暴露しないよう、適切な防護を行う。この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。ただちに医師の診察を受けること。

皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合: すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。直ちに医師を呼ぶ。

眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。ただちに眼科医の診察を受けること。コンタクトレンズをはずす。

飲み込んだ場合

飲み込んだ後は水を飲ませ(多くてもグラス2杯)、嘔吐を避ける(穿孔のリスクあり)直ちに医師を呼ぶ。中和させようとしないこと。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

使ってはならない消火剤

本物質/混合物に対する消火剤の制限なし

5.2 特有の危険有害性

炭素酸化物

リンの酸化物

蒸気は空気より重く、床に沿って広がることもある。

高熱で空気と反応して爆発性混合物を生じる

5.3 消防士へのアドバイス

自給式呼吸器がある場合のみ危険区域に留まってもよい。安全なゾーンまで離れるか適切な保護衣を着用して、皮膚に触れないようにすること。

5.4 詳細情報

ガス/蒸気/ミストを水スプレージェットで抑える(除去する)。消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: 蒸気、エアゾールを吸入してはならない。触れないようにすること。十分な換気を確保する。危険なエリアから避難し、緊急時手順に従い、専門家に相談のこと個人保護については項目8を参照する。

6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。物質の制限があれば順守のこと（セクション 7、10参照）液体吸収剤(例. Chemizorb®)で処置すること。正しく廃棄すること。関係エリアを清掃のこと。

6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

注意事項は項目2.2を参照。

7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

保管クラス

保管クラス(ドイツ)(TRGS 510): 8A: 可燃性、腐食性危険物

保管条件

密閉のこと。

7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

8.2 曝露防止

適切な技術的管理

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。

保護具

眼 / 顔面の保護

NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の

保護具を使用する。密着性の高い安全ゴーグル

皮膚及び身体の保護具

要

身体の保護

保護衣

呼吸用保護具

気化ガス/エアロゾル発生時に必要

次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨します。DIN EN 143、DIN 14387お

よび使用済み呼吸器保護システムに関連する他の付属規格。

環境暴露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状	液体(ICSC(J) (2001))
色	無色または琥珀(ICSC(J) (2001))
臭い	無臭(HSDB (2006))
臭いのしきい(閾)値	データなし。
pH	3 (20°C)(濃度: 1 g/L)(GESTIS (Access on Aug. 2012))
-60°C(Howard (1997))	
155°C(CRC (91st, 2010))	
198°C(CC)(HSDB (2006))	
データなし。	
データなし。	
データなし。	
0.00000969 mmHg(25°C)(Howard (1997))	
データなし。	
0.965(Gangolli (2nd, 1999))	
水:182 mg/L at 25 deg C(HSDB (2006))	
ベンゼン、ヘキサンに可溶。(CRC (91st, 2010))	
4.37(Howard (1997))	
>300 °C(NITE総合検索 (Access on Aug. 2012) (元文献:メルク試薬カタログ (Chem DAT)))	
240°C(ICSC(J) (2001))	
40mPa・s(GESTIS (Access on Aug. 2012))	

融点・凝固点

-60°C(Howard (1997))

沸点、初留点及び沸騰範囲

155°C(CRC (91st, 2010))

引火点

198°C(CC)(HSDB (2006))

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし。

燃焼性(固体、気体)

データなし。

燃焼又は爆発範囲

データなし。

蒸気圧

0.00000969 mmHg(25°C)(Howard (1997))

蒸気密度

データなし。

比重(相対密度)

0.965(Gangolli (2nd, 1999))

溶解度

水:182 mg/L at 25 deg C(HSDB (2006))

ベンゼン、ヘキサンに可溶。(CRC (91st, 2010))

n-オクタノール/水分配係数

4.37(Howard (1997))

自然発火温度

>300 °C(NITE総合検索 (Access on Aug. 2012) (元文献:メルク試薬カタログ(Chem DAT)))

分解温度

240°C(ICSC(J) (2001))

粘度(粘性率)

40mPa · s(GESTIS (Access on Aug. 2012))

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

高熱で空気と反応して爆発性混合物を生じる

引火点より下のおよそ15ケルビンからの範囲は危険とみなされている。

10.2 化学的安定性

標準的な大気条件(室温)で化学的に安定。

10.3 危険有害反応可能性

データなし

10.4 避けるべき条件

強力な熱

10.5 混触危険物質

強酸化剤

10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットのLD50値は4940 mg/kg bw(ECETOC JACC 20 (1992))、1400 mg/kg(HPVIS (2009))と2件のデータが得られており、1件は区分外(国連分類基準の区分5に相当)、もう1件が区分4に相当することから、安全性の観点から有害性の高い区分を採用し区分4とした。GHS分類:区分4

経皮

ウサギのLD50値は1250 mg/kg bw(ECETOC JACC 20 (1992))に基づき、区分4とした。GHS分類:区分4

吸入:ガス

GHSの定義における液体である。GHS分類:分類対象外

吸入:蒸気

データ不足。なお、ラットに、本物質の飽和蒸気を8時間ばく露した結果、死亡も症状も認められなかったとの記載(BUA 172(1995))がある。

GHS分類:分類できない

吸入:粉じん及びミスト

データなし。GHS分類:分類できない

皮膚腐食性及び刺激性

ウサギに本物質0.5 mLを1~8時間適用した皮膚刺激性試験で、腐食性(corrosive)との結果(USEPA/HPV (2001))、およびウサギに本物質原液0.5 mLを24時間の閉塞適用した別の試験でも強い刺激性(highly irritating)を示し、皮膚一次刺激指数(PDII)は6.2との結果(HPVIS (2009))に基づき、区分1とした。なお、以上の試験以外にウサギを用いた試験で、0.5 mLを24時間の閉塞適用によりPDIIは0で刺激性なし(not irritating)、また、48時間の閉塞適用でPDIIは4.85で刺激性はあるが腐食性はない(not corrosive)との結果(HPVIS (2009))も報告されている。GHS分類:区分1

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

ウサギに本物質100 µLを適用した眼刺激性試験で、腐食性(corrosive)との結果(USEPA/HPV (2001))、およびウサギ6匹を用いた別の眼刺激性試験(Federal Register)では、総合平均スコア(AOIに相当)は適用後1日、2日、3日および7日のいずれも98以上(最も重度な場合110)で腐食性あり(corrosive)との評価結果(HPVIS (2009))に基づき、区分1とした。GHS分類:区分1

呼吸器感作性

データなし。GHS分類:分類できない

皮膚感作性

データなし。GHS分類:分類できない

生殖細胞変異原性

in vivo試験のデータがなく分類できない。なお、in vitro試験として、エームス試験で陰性(ECETOC JACC 20 (1992))、マウスリンフォーマ試験で陰性(HPVIS (2009))の結果が報告されている。GHS分類:分類できない

発がん性

データなし。GHS分類:分類できない

生殖毒性

データなし。GHS分類:分類できない

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

ラットに500~3000 mg/kgを経口投与した急性毒性試験(LD50: 1400 mg/kg)において、全用量群で抑制症状と死亡が見られたが、剖検ではばく露との関連が明確な変化は認められなかった(HPVIS (2009))。また、ラットに500または5000 mg/kgを経口投与した急性毒性試験(1群10匹)では、5000 mg/kgの投与で全例が死亡し、500 mg/kgの投与では死亡例はなく、生存例(500 mg/kg投与群)での一般症状は、鼻汁と下痢の症状のみであった(HPVIS (2009))。以上の報告があるが、ガイダンス値範囲内の用量における影響の詳細は不明であり、データ不足のため「分類できない」とした。GHS分類:分類できない

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

データなし。GHS分類:分類できない

吸引性呼吸器有害性

データなし。GHS分類:分類できない

12. 環境影響情報

12.1 生態毒性

データなし

魚毒性

LC50 - *Oncorhynchus mykiss* (ニジマス) - 48 - 54 mg/l - 96 h

LC50 - *Oncorhynchus mykiss* (ニジマス) - 48 - 54 mg/l - 96 h

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性

LC50 - *Daphnia magna* (オオミジンコ) - > 42 mg/l - 48 h

LC50 - *Daphnia magna* (オオミジンコ) - > 42 mg/l - 48 h

藻類に対する毒性

成長抑制 EC50 - *Chlorella emersonii* - 50 - 100 mg/l - 48 h

成長抑制 EC50 - *Chlorella emersonii* - 50 - 100 mg/l - 48 h

魚毒性(慢性毒性)

死亡率 LOEC - *Oncorhynchus mykiss* (ニジマス) - 20.6 mg/l - 48 d

12.2 残留性・分解性

データなし

12.3 生体蓄積性

データなし

12.4 土壌中の移動性

データなし

12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

12.6 内分泌かく乱性

データなし

12.7 他の有害影響

データなし

オゾン層への有害性

非該当

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

製品

内容及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

14. 輸送上の注意

14.1 国連番号

ADR/RID（陸上規制）：1902 IMDG（海上規制）：1902 IATA-DGR（航空規制）：1902

14.2 国連輸送名

ADR/RID（陸上規制）：DIISOCTYL ACID PHOSPHATE

IMDG（海上規制）：DIISOCTYL ACID PHOSPHATE

IATA-DGR（航空規制）：Diisooctyl acid phosphate

14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）：8 IMDG（海上規制）：8 IATA-DGR（航空規制）：8

14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）：III IMDG（海上規制）：III IATA-DGR（航空規制）：III

14.5 環境危険有害性

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR（航空規制）：非該当

非該当

14.6 特別の安全対策

なし

14.7 混触危険物質

強酸化剤

15. 適用法令

消防法

第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体

船舶安全法

腐食性物質

航空法

腐食性物質

海洋汚染防止法

有害液体物質(Y類物質)

16. その他の情報

略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA: 国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際輸送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

参考文献

- 【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>
- 【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>
- 【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>
- 【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>
- 【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>
- 【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>
- 【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>
- 【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>
<http://www.echemportal.org/echemportal/index?>
pageID=0&request_locale=en
- 【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>
- 【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>
- 【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>
- 【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>
- 【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>
- 【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本

MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。